日本YMCA同盟

THE YMCA

The Young Men's Christian Association News

11

No.861 2026

2026年11月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日　第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003　東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640　Fax 03-5367-6641
URL：https://www.ymcajapan.org/
発行人／太田 直宏　編集人／横山 由利亜



撮影：Dialogue for People 安田菜津紀

OPINION

「共に歩む」とは何か
難民の声、家族の歴史から考えた多様性

――「第52回全国学生YMCA夏期ゼミナール」基調講演より――

フォトジャーナリスト **安田 菜津紀**



認定NPO法人Dialogue for Peopleフォトジャーナリスト。同団体の副代表。東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。

この地中海に面した美しい港の写真は、2018年2月にガザ地区で撮影したものです。友人が「最後に自慢の場所があるからどうしても見て」と連れてきてくれた場所でした。「きれいでしょう。でもね、あそこに見えている漁師さんたちは遠くまで船を出せないんだよね。もし何キロか先まで船を出そうとしたら、捕まるか、撃たれるか、どちらかなの」と彼女は言いました。

パレスチナ問題は宗教問題と語られがちですが、それはミスリードです。ヨーロッパなどで迫害されたユダヤ人をヨーロッパ自身が引き受けず、アラブ・パレスチナ人が暮らしていた土地へユダヤ人たちが入植後、1948年イスラエルが建国され、家を追われた難民が逃げ込んだ場所のひとつがガザでした。ここで起きているのは宗教ではなく、宗教を引き合いに暴力を正当化する政治の問題です。

福岡市ほどの狭いエリアに約220万～230万人が暮らす人口密集地で、周囲を封鎖されるガザは「天井のない監獄」と呼ばれています。港を案内してくれた友人アマルの自宅は爆撃で跡形もなく倒壊しました。空爆で2カ月間昏睡状態だったマハディさんは、目覚めた直後に両親、8人の兄弟、幼い2人の娘が一挙に殺害されたと知らされ、命が助かった瞬間に「残念ですね」と声をかけられました。確認されているだけで死者7万3千人以上、いまだ少なくとも1万人以上が瓦礫の下に埋まったままだと言われています。人々は言います。「私たちは数ではない。一人ひとりに人生と夢があったのだ」と。

シリアも長らく戦争が続いてきた場所です。2011年の大規模な民主化運動に対し、政権が武力鎮圧を図ったことが始まりです。反政府デモを支持したことで警察に追われたシリア出身のクルド人ジュディさんは命からがら日本へやってきました。しかし「名指しで命を狙われている客観的証拠がない」と難民不認定となり、日本で生まれた彼の娘も事実上の無国籍です。日本の外国人政策の根底には、人を人権の主体ではなく管理監視の対象とする姿勢が窺えます。隣人として存在するのに、まるでいないかのように扱われているのです。

この姿勢には歴史的連続性があり、私自身のルーツにも関わっています。高校生の時、戸籍を見て初めて父が在日コリアン二世だと知りました。幼少期、絵本をスラスラ読めない父に「お父さん変だよ。日本人じゃないみたい」と言い放った時の父の顔を私は一生忘れません。いつもの笑顔の奥だけが笑っていない。差別の中でルーツを隠し、語ることができなかった父にとってどれほど残酷な言葉だったでしょうか。

巨大な暴力や差別がある一方で、遠くの他者を思い合えると教えてくれたのもガザでした。東日本大震災以降、ガザの子どもたちは復興を祈って毎年3月に凧揚げを続けてきました。14歳のシャヘドさんは「あんなに多くの人が同時に家を失い、どれだけ苦しく悲しかったか。こんどは私から日本の人を励ます番だ」と語ってくれました。その彼女とも2023年10月の大虐殺以降、連絡が取れていません。人権や人命は何かの対価ではなく誰しもが守られるべきものです。遠くの他者を思って人は行動できると最も強い形で教えてくれた彼女たちに、私たちはどんな応答ができるのでしょうか。

（まとめ・日本YMCA同盟 福田 奈里子）

ガザ侵攻3年　「忘れないで」 現地の声に応え続ける

ガザへの大規模な攻撃が始まって3年となる10月3日、支援活動をしている団体が集まり「NGO合同イベント『パレスチナを忘れないで』」を開催。現地の近況を報告すると共に、「共同声明：パレスチナに自由と尊厳を」を発出しました。会場は東京都港区の聖アンデレ教会。アーティストの坂本美雨さんも来場し、個人的なつながりから広がった支援活動について語り、その想いを歌いました。

昨年10月に停戦が発効されたガザですが、その後も空爆は続き、この一年間でおよそ1300人が亡くなっています。3年間の死者数は7万3千人、負傷者は17万人超。8割以上の建物が破壊され、水道や電気も途絶えたまま。食料や医療、燃料など物流も制限されるなど、人道危機は改善されていません。

現地で炊き出しをしているNPO法人「パレスチナ子どものキャンペーン」等からは、テントの設置スペースも限られた廃墟の街で、「私たちを忘れないでほしい」と訴える母親の声が紹介されるなど、過酷な暮らしが報告されました。

ヨルダン川西岸でも、入植者の暴力が横行し、47の村や集落が立ち退きを余儀なくされ、4万人以上が避難しています。

報告後には共同声明を読み上げ、オリーブの葉にメッセージを託すワークショップも実施。命と暮らしが守られるように呼びかけました。



NPO法人「日本国際ボランティアセンター」をはじめ、日本YWCAやピースボートなど10団体が声明文を発出。写真右端は日本YMCA同盟の太田直宏総主事

現地YMCAは

「ガザYMCA」は爆撃により活動休止中ですが、ヨルダン川西岸地区にある「東エルサレムYMCA」は、紛争で傷を負った青年たちのリハビリや職業訓練、破壊されたオリーブ畑の再生プロジェクトに取り組んでおり、日本のYMCAはこれを募金によってサポートしています。詳細はホームページで。ご支援ご協力をお願いします。

声明文ほか詳細はホームページで
https://www.ymcajapan.org/topics/20261013/

全国学生YMCA夏期ゼミナール
「自分の言葉で語り合う」



9月11日～13日、YMCA東山荘にて「今、あなたの声を聞き私の声を聞く～共に歩むために～」をテーマに第52回全国学生YMCA夏期ゼミナールを開催し、全国から48名が集いました。基調講演では、フォトジャーナリストの安田菜津紀さん（＝1面）がガザやシリアの現場、自身のルーツについて語られ、個人の経験を通して「世界」と出会う豊かな時間となりました。運営委員会が掲げた「（平和について）拙くても自分の言葉で語り合う」姿勢はプログラム全体に貫かれ、学生たちは自らの問いや経験を丁寧に言葉にし、互いに聴き合いました。会期後に1泊追加で行われた“アフター夏期ゼミ”でも明け方まで熱い議論が続き、参加者一人ひとりがテーマを深める機会となりました。

日本YMCA同盟　福田 奈里子

2026年熊本地震 リフレッシュキャンプ
八代市の子どもたちに“夏休み”を



7月28日の地震後いつもと違う夏休みを過ごした子どもたちに、楽しい思い出をつくってもらいたい。そんな願いをこめて9月19日～21日、YMCA阿蘇キャンプで「あおぞらキャンプ ～みんなの夏休み～」を実施。八代市の小中学生55人が参加しました。

初日はグループでキャンプ場内を探索。夜にはボランティアリーダーやスタッフなど70人以上でキャンプファイヤーを囲み、大いに盛り上がりました。2日目は、キャンプの名前の通りの青空が広がる中、グループごとに山登り・クラフト・川遊びの選択プログラム。3日目にはピザ作りも楽しみました。

キャンプの運営を担ったのは、全国のYMCAから集まった12人のボランティアリーダーたち。日ごとに子どもたちとのつながりが深まり、最終日には「キャンプ後もつながっている証に」と、グループ毎に作った旗をメンバーで切り分けて持ち帰りました。

八代市役所での解散式では、キャンプソング「がんがん」を一緒に歌いながら涙を流す姿も見られ、保護者からも多くの温かい言葉をいただきました。

この3日間が楽しい思い出となり、復興半ばの日々を支える力となれば幸いです。

熊本YMCA　藤本 博人

YMCAは今後も、八代市と御船町の避難所運営とあわせて、阿蘇キャンプでのリフレッシュプログラムも継続の予定です。災害によって日常を失った子どもたちに、遊びを届けることもまた、YMCAにできる支援の一つです。ご協力をお願いします。

詳細はこちら▶https://www.ymcajapan.org/society/relief/kumamoto2026/

2026年度 世界YMCA／YWCA合同祈祷週

11月8日(日)～14日(土)

テーマ

このような時にあって、使命を与えられること
リーダーシップは影響力。それは誰もが持っている

“Called for Such a Time as This”.
Leadership is influence, and everyone has it.



世界中のYMCAとYWCAが毎年11月、一つのテーマを設定して共に学び、祈りの時をもつ「合同祈祷週」。1904年から続くこの週間は今年、11月8日～14日に実施されます。期間中、各地で祈祷会が開催されます。詳細はお近くのYMCAにお問い合わせください。

＊詳しいブックレットはホームページで
https://www.ymcajapan.org/

テーマ説明

“人は誰でも皆、神から尊い賜物を与えられている”という聖書の教えに基づき、その力をどのように活かせば自分自身や家族、地域社会、そして世界にポジティブな変化をもたらすことができるか、世界の仲間と共に考えます。聖書に登場する6人の指導者の物語を題材に、私たち一人ひとりが「まさにこのような時のために」遣わされていると気づくことができるように。神学的な考察や実践的活動を通じて社会正義を推進し、平和と和解を求め、たとえ自分に自信が持てなくても、あるいは失敗した時であっても、変革の先頭に立つ勇気を見いだせるように、共に考えを深めていきます。